平成２７年度研究成果報告書≪平成２６年度指定教育課程研究指定校事業≫

都道府県・指定都市番号	30	都道府県・指定都市名	和歌山県	研究課題番号・校種名	２　高等学校
				教科名	看　護
研究課題	新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究 生徒の主体的な学習を通して思考力、判断力、表現力、技能を育成する指導方法などの工夫改善と学習の実現状況の把握についての研究 新設科目「看護の統合と実践」において行う研究				

学校名（生徒数）	和歌山県立熊野高等学校（７００人）
所在地（電話番号）	0739-47-1004
研究内容等掲載ウェブサイト URL	admin@kumano-h.wakayama-c.ed.jp

研究のキーワード

主体的な学び（ジグソー学習法・ロールプレイ）・互恵的関係づくり・知識の統合・リフレクション（ポートフォリオ・ピア評価）

研究成果のポイント

生徒の主体的な学びを育むジグソー学習法などを取り入れ、以下の成果を得ることが出来た。
①各自の責任が明確になり、それを果たすために自ら考え行動できた。
②学習活動の中から「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を仲間と共に得ることができた。
③自己の到達度を客観的に評価し、自分の成長を可視化することができた。
④学習者同士がお互いに評価し、自己を対象化することができた。

１　研究主題等

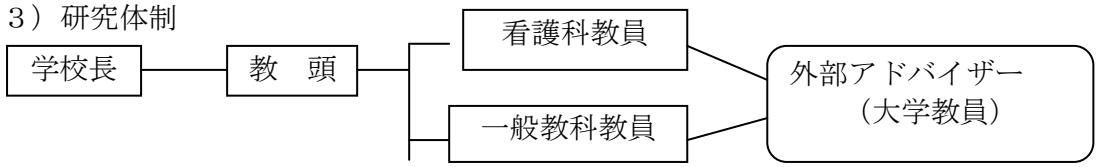
（１）研究主題

自ら学び、考え、行動する力の育成のための指導の工夫と評価
～看護の実践への展開においてジグソー学習法を取り入れた取組みの評価～

（２）研究主題設定の理由

平成 26 年度は、「看護の統合と実践」の看護の実践において、ジグソー学習法を取り入れた取り組みを実施し生徒一人一人が自ら考え行動する点では成果を得ることは出来たが、振り返りシートの「あなたは話し合いにどれほど貢献できたか」「あなたはメンバーに認められていると思うか」は他の項目より低い評価になっている。さらに主体性を伸長するためには、いかに自己肯定感を高めていくかが課題である。平成 27 年度は、主体的な学びを育む事についてジグソー学習法を取り入れた授業を通し昨年の生徒と比較検討を行う。「自己肯定感を高める」には、ポートフォリオやリフレクションを行い自己のプロセスを認め振り返ることにより「自己肯定感を高める」ことに繋げる。

（３）研究体制



（４）２年間の主な取組

	取　組
平成26年度	**１．研究体制を整える。** １）研究グループを編成し、研究の取り組みの計画を立案する。 **２．ジグソー学習法について、教員の理解を深める。** １）和歌山大学　岩野准教授による「協同学習」についての講習会を実施。 ２）ジグソー学習法の文献検索と文献検討を行う。

	取　組
平成26年度	**３．研究の検証・評価の方法を明確にする。** １）専門家よる検証・評価方法について指導・助言を受ける。 ２）単元の目標に準拠した評価規準になっているか見直す。 ３）検証・評価方法についてまとめ、教員間の共通理解を徹底する。 **４．専攻科１年生で実施する「看護の統合と実践」の看護の実践において、ジグソー学習法を効果的に活用できる工夫をする。** １）「看護の統合と実践」の内容・方法・評価を見直す。 ２）既習の学習内容が統合できる患者の状況設定問題を作成する。 ３）「学生の考える力を育てる授業展開」の講習会に参加する。 ４）ジグソー学習法を活用した授業を実施する。 ５）研究協議、生徒や参観者へのアンケートを実施、検証・評価し、改善点を明確にする。
平成27年度	**１．研究体制を整える。** １）研究グループを編成し、取り組みの計画を立案する。 ２）専門家よる検証・評価方法について指導・助言を受ける。 **２．研究授業・公開授業を実施し、取り組みについて検証・評価し、今後の課題を明確にする。** １）改善・工夫を加えたジグソー学習法を活用した授業を実施する。 ２）研究協議、生徒や参加者へのアンケートを実施する。 ３）検証・評価をまとめ、改善点を明確にする。 **３．本研究全体の成果をまとめる。** １）研究目的が達成できたか、今後の課題は何かを明確にする。 ２）研究収録を作成する。

２　研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

１）主体的な学習（ジグソー学習）への理解

ジグソー学習とは､例えば､まず初めに４人程度の小グループをホームグループとして編成する。ホームグループに対して、一つの課題を与える。課題を４つに分割し、一人ずつが担当する。同じ課題を担当する者同士でグループ（以下研究グループという）を編成し学習していく。そしてもう一度ホームグループに戻り、学習した内容を紹介しあって、ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる手法である。この手法は、各自の責任が明確で、活動性の高い学習法であるため、活動する生徒の理解が重要となる。そこで、ジグソー学習法を実施する前に、ねらいや教師の役割を明確にし、生徒への理解を促した。また、授業の作業手順を明確にし、生徒が見通しを立てて安心して作業ができるよう工夫した。主体的な学びについて評価するため、生徒が各自、授業終了後に「授業全体」「話し合い」「グループ活動」について振り返りを行うこととした。

２）互恵的関係づくりの工夫

ジグソー学習を効果的に行うためには、生徒全員が参加し、お互いが高められる互恵的関係づくりが大切になる。そのため学習開始前に、ホームグループの編成と学習活動のルールづくりについて工夫を行った。

３）知識の統合のための工夫

取り扱う新設科目「看護の統合と実践」は、看護に関する各科目で習得した基本的な看護の知識と技術を臨床実践に活用できるよう統合させることを目的としている。そこで、年齢・性別・疾病が異なり、各科目の知識の統合が必要な事例を設定した。

４）自己肯定感を高めるための工夫

１年目の取り組みにおいて「自己肯定感を高める」ことが課題である。そのため、ポートフォリオやリフレクションを行い自己のプロセスを認め振り返ることができる。またピア評価を取り入れることで自己を対象化して振り返ることができ自己肯定感を高めることに繋げる。

（２）具体的な研究活動

１）主体的な学習（ジグソー学習）への理解

ジグソー学習を導入する前に、生徒へ以下の４点について説明し、理解を得た上で実施した。

①ジグソー学習の目的

②ジグソー学習の進め方
ホームグループと研究グループの作業内容を説明し、作業手順を明確に提示した。
③ジグソー学習中の教師の役割
ア．課題に対して助言はしても解答はしない。
イ．作業手順については指示を行う。
ウ．グループの観察は常に行う。
④授業毎に振り返りシートを記入する。
振り返りシートの内容は、授業全体が 5 項目、話し合いが 5 項目、グループが 6 項目の計 16 項目について数字で尺度を記入するものと自由記入欄を毎回記入させた。
２）互恵的関係づくりの工夫
①ホームグループ編成について
[1)]浅海による「主体性尺度」を引用した質問紙によるアンケートと「夏休みの課題テスト」から、やる気と知識の平均値がほぼ同じになるようホームグループを編成し、活動がスムーズに行えるよう工夫した。グループは 4 人 1 組で 10 グループ編成した。さらに、日頃の人間関係について担任からアドバイスを受け調整を行った。
②グループのルールづくり
ルールづくりにおいては、「ア．個人の責任を明確にする。イ．参加の平等性を図る。ウ．互恵的な協力関係をつくる。」を目標に各グループで活動のルールを作成した。学習活動中、ルールを意識して行動するよう必要時助言した。
③振り返りシートの「グループ」の評価が、前回より低下した次の授業前には、必ずルールの確認を意識するよう助言してから活動に入るようにした。
④ジグソー学習を取り入れることで、協同性が高められ各自のマネジメント能力が育成されると考えられる。その効果について、開始前、活動中、終了後に[2)]安永らの「協同認識尺度」を引用し評価する。
３）知識統合のための工夫
今回、年齢・性別・疾病が異なる２つの事例を設定し、１事例それぞれに５グループが取り組むこととした。研究グループの人数が多いとグループの活動性が高まらないことが考えられるため、２事例を設定し、研究グループの人数を 5 人となるようにした。

事例Ａ	29 歳・女性・妊娠高血圧症候群・インドネシア人の妊婦
事例Ｂ	40 歳・男性・筋萎縮性側索硬化症

事例Ａでは母性看護・国際看護・社会保障を、事例Ｂでは、成人看護・在宅看護・社会保障の知識を統合する課題設定とした。又、事例Ａ・Ｂともに、退院調整カンファレンスの場面を設定しており、実践に即した看護過程の展開における思考力・判断力など基礎的な能力が要求される内容とした。課題解決のためにジグソー学習を活用し、ホームグループ・研究グループにおいて各自が責任を持って考え、伝えないと解決できないような学習活動を工夫した。さらに、カンファレンスのシナリオを作成することで、患者・家族・医療者の立場を踏まえて課題に取り組ませるようにした。
４）自己肯定感を高めるための工夫
①授業の到達目標を自分で設定することで自己の明確なゴールを目指すことができる。ゴールに向かうための毎授業目標をあげることで自己に対してのマネジメント力を促すことができ、毎時自分の目標シートを見ることで、今行っていることの自己理解ができ学習意欲を高めることができた。
②振り返り記録紙に毎授業の目標に沿った振り返りができる。また、前回の振り返り記録紙に書いてある質問、意見を必ず授業導入の際に伝え返答する。ポートフォリオで自分で調べ学び考えたことを何度もみることができ、自己の課題に気づくことができる。
③授業の節目に、お互いの良いところをメッセージとして、グループメンバーに伝える機会を与えピア評価を取り入れ、自己を対象化することができ、自己と他者を客観的にみることができグループ力の向上に繋がる。

３　研究の成果と課題

（１）成果
今回の研究は、「自ら学び、考え、行動する力」の育成のための指導の工夫としてジグソー学習

を取り入れた取り組みを実施した。
　ジグソー学習では、協同して作業を行うため、懸念されることは、各自が責任をもって取り組まないために生じるグループメンバー内の関係悪化である。そのため、互恵的関係を重要視し、グループの活動ルールを生徒達が作成し、そのルールを意識しながら活動した。その結果、振り返りの5段階の自己評価の平均値において、「授業中どれほど真剣に考えたか。」「グループの仲間は話し合いにどれほど参加できていたか。」では平成26年、平成27年ともに回を重ねるごとにおおむね数値が高くなってきているこのことから、自分と仲間の学習に対する行動は関係し、協同活動の中で各自が責任をもって取組んでいたことがわかる。
　主体性を高めるためには、「学ぶ楽しさ」を実感し自信へとつなげていくことが重要である。そのため課題設定は、簡単に答えが出るものではなく、様々な角度から各自が責任をもって取り組まなければ解決できないやや難解なものとした。そのため、課題提供を行った授業では、「授業内容をどれほど理解できたか。」は平成26年、3.95平成27年、4.16と満足度は低く、一方課題解決した授業では平成26年、4.67平成27年、4.58と上昇している。協同認識尺度で、「グループのために自分の力を使うのは楽しい。」が、「とてもそう思う。」が、ジグソー学習導入前は平成26年、17.9%だったのが、64.1%平成27年、28.2%だったのが53.8%と大幅に上昇した。振返りの自由記入欄に「課題は難しく話し合いがなかなか進まず不安だったが皆で意見を出し合い考えるのは楽しい。」の意見から、仲間とともに「学ぶ楽しさ」を感じていることがわかる。
　以上の結果から、ジグソー学習をとおして、主体的で自律的な学びの構え、確かで幅広い知識習得、仲間と共に課題解決に向かい、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を得ることができたと考えられる。
　　協同認識尺度と「メンバーから認められていると思いますか。」では、平成26年、平成27年とも第１回から比べて数値が高くなっている。そのため、「自己肯定感を高める」には、ポートフォリオやリフレクションを行い自己のプロセスを認め振り返ることやピア評価を取り入れることで自己を対象化して見つめることでより「自己肯定感を高める」ことができたと考える。

（２）課題
　ジグソー学習のホームグループ・研究グループ内での活動を通して、生徒一人一人が自ら考え行動する点では成果を得ることはできた。今後、各科目の知識を統合し問題解決できる能力を身につけられるよう表現力や技能を高める指導の工夫・改善を行っていく必要がある。
　さらに、課題として平成26年、平成27年、共にアンケートの数値が低くなっている第１０回授業を振り返り、授業内時間内に課題が達成出来ていないことが原因であることがわかり、時間内に達成するためには、グループ間でのマネジメント能力や課題に取り組むことは、「学ぶ楽しさ」や「わかる喜び」をえることができるため、自己肯定感に影響したと考える。
「メンバーから認められていると思うか。」は、平成26年に比べ平成27年は、全体的に高い数値になっている。平成27年度は、グループ間での意見交換の後に、クラス全体に発表する時間を設けた。そのことが自己肯定感の向上に影響したと考える。これらのことから、協同効用因子を高められるように、一人一人問題解決能力を身につけられるよう表現力や技能を高めるとともに、グループ内でどのように貢献できたか等のグループ間やクラス間で行動する力を得る事ができるよう指導の工夫、改善が必要である。

（３）指定期間終了後の取り組み
「看護の統合と実践」の看護の実践において、検証・評価した内容に基づき、改善工夫を加える。知識の定着と思考力を高めるためには、ジグソー学習を取り入れる。各科目の知識を統合し問題解決できる能力を身につけられるよう表現力や技能を高める指導の工夫が必要であるとともに、グループ間のつながりを高められる関係作りの工夫が必要である。そのために、「動的な授業実践」を学習の素材とするシュミレーション教育の充実をはかる必要がある。